

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）
分担研究報告書

受検～受診～受療に関わる医療者等の対応のあり方
～患者が望む肝炎医療コーディネーターのあるべき姿に関する研究～

研究分担者 米澤敦子 東京肝臓友の会 事務局長

研究要旨

【背景】肝炎コーディネーターの普及実態については、都道府県で養成や活用にばらつきがみられる。また、養成者数のみを評価する傾向もある。

【方法】現在、活動している都道府県のコーディネーター、特に医療の分野に於けるコーディネーターの実態調査結果について患者視点による分析。

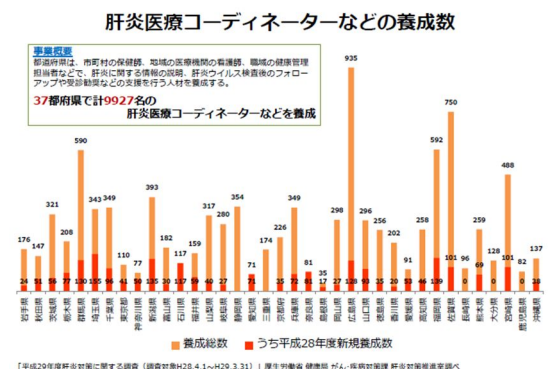
【結果】実態調査の結果に対し患者側から問題点、改善点の指摘を行った。また、都道府県における肝炎コーディネーター養成者数の比較、評価についても検討、肝炎についての理解が広く深まるという点において、患者にとって養成者数も評価に値することがわかった。

【結語】実態調査に対する患者視点による具体的な解析について、継続して実施することを確認した。それに加え、患者調査も行っていく。

A．研究目的

肝炎医療コーディネーターの養成については、平成20年に厚生労働省「肝炎患者等支援対策 事業実施要綱」に基づき行われる中で、平成28年に改正された「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」第5(2)イにおいて、「肝炎医療コーディネーターの基本的な役割や活動内容等について、国が示す考え方を踏まえ、都道府県等においてこれらを明確にした上で育成を進めることが重要である」とされたことを受け、都道府県において推進されている。その養成、普及の実態については都道府県でばらつきがあり、肝炎対策推進協議会での厚労省の実態報告などによると、養成者数のみを評価する傾向もみられる。本来肝炎医療コーディネーターは、肝炎患者のために養成され、活動すべきであるが、肝炎患者が肝炎医療コーディネーターに何を望むかといった議論

はこれまでされてこなかった。それを明確にし、医療現場におけるコーディネーターが肝炎患者にとっていかに有益であるかを探ることが本研究の目的である。



B．研究方法

現在、活動している都道府県のコーディネーター、特に医療の分野に於けるコーディネーターの実態調査結果について患者視点による分析を行った。

肝炎患者対象のヒアリング調査により患者が求めるコーディネーター像を探った。

C . 研究結果

実態調査の結果に対し患者側から問題点、改善点の指摘を行った。また、都道府県における肝炎コーディネーター養成者数の比較、評価についても検討、肝炎についての理解が広く深まるという点において、患者にとって養成者数も評価に値することがわかった。

D . 考察

今年度の肝炎医療コーディネーター実態調査により、現在の積極的に活動し患者の支持を得ている地域の肝炎医療コーディネーター像が明らかとなった。

来年度以降は、国内の多くの地域の患者団体よりヒアリングを行い、患者が望む肝炎医療コーディネーターの姿を具体的に明示していく。

E . 結論

実態調査の結果に対し患者側から問題点、改善点の指摘を行った。また、都道府県における肝炎コーディネーター養成者数の比較、評価についても検討、肝炎についての理解が広く深まるという点において、患者にとって養成者数も評価に値することがわかった。

数だけではなく、今後は肝炎医療コーディネーターの質を求めてヒアリングを中心とした患者調査を行う。